

学びの広場

学力向上通信 職員室版
夢田 涼太郎
令和5年 4月27日
3号。能力ベース研修報告

1. 研修の目的

- ① 自分の学校の授業づくりを見直す（始発点の確認）
- ② 学習指導要領に基づく授業とは〇〇〇である。（〇〇〇を各校で言語化する）

2. 研修の内容

①各小・中学校の学力向上テーマから読み取れること

学校	学力向上テーマ
吹田第六小	成長を実感できる書く言語活動の研究
高野台小	主体的・対話的に学び合い、深く考えることを通して、自分の見方・考え方を表現できる子～算数科～
古江台小	相手に自分の思いを伝える子どもの育成
吹田東小	子どもたちが興味をもって、主体的に学ぶ力を育てる～できた！わかった！を味わえる子どもを目指して～
北山田小	自分で考え、表現し、行動していく子を目指して～「対話」を通した学び合いの授業～
千里丘北小	お互いに認め合い、自分の思いや考えを伝え合う
東佐井寺小	子どもの主体的な学びのある国語授業づくり～物語文教材学習を通して～
第二中	伝え合う力の育成
第五中	能力ベースの授業づくりの実践
南千里中	自ら課題を発見し、仲間と共に解決して、考えを深めよう

- ・「伝え合う」、「学び合う」などテーマが多く感じる。
- ・「主体的・対話的・深い学び」のテーマが多く感じる。

・五中が「能力ベースの授業づくりの実践」をテーマに掲げているのは他校とは「軸」が異なる。

・「多様性」と「共通性」の2軸

- ・ここで言う多様性とは、「自校の課題、つきたい力」と向き合って設定したテーマ
- ・多様性は大切。しかし多様性だけでいいのか？
- ・例えば、北海道の学校で育った子どもと、沖縄の学校で育った子どもが、身に着けている能力が違って社会に出てもいいのでしょうか？
- ・教師目線で言うと、他校に転任したときに、つきたい力や風土の違いから、今までの授業づくりが十分に活かされないということもあるかもしれません。

・「学習指導要領に基づく授業づくり」とはどういうものなのでしょうか？**答えがあるわけではありません。自分で言語化できるようにしていきましょう。**

②能力ベースの授業づくりについて

- ・学習指導要領の改訂は10年ごとに行われる。前回の学習指導要領の改訂でパラダイムシフトが起きた。
- ・「何を知っているか？」という「内容」の習得、いわゆる知識・技能の獲得を優先に行われてきた、「内容ベース」の授業から、「何ができるのか」「どのような問題解決を成し遂げるのか」という「能力」を身につける、「能力ベース」の授業へと転換された。
- ・主語が「教師」から「生徒」「児童」に変わった。

どうして変わる必要があったのか？

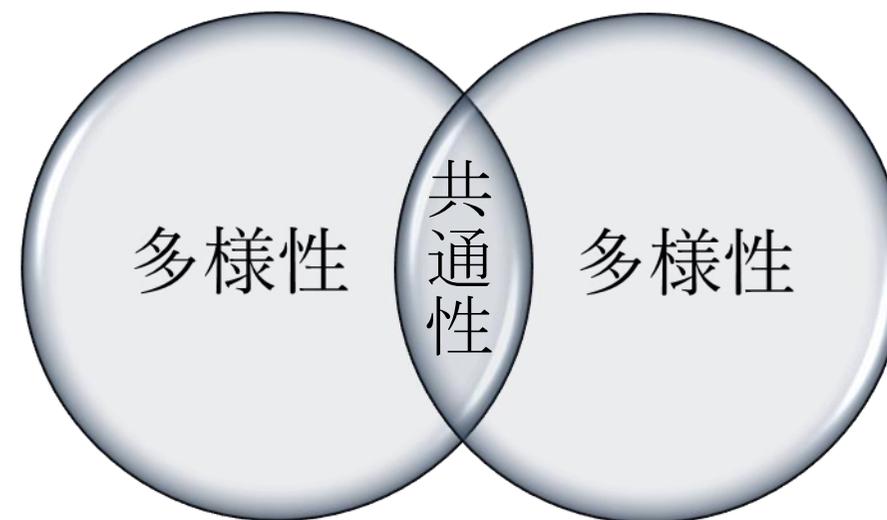
- ・2030年のSociety5.0の実現に向けた力をつけるため。**豊かな創造性を備え、持続可能な社会を創っていく子供たちの育成**が求められます。これまでの内容ベースの教育では、そのような子供を育てるのが難しい。なぜならば、**答えのない社会では、問いをもち解決する力をもたせることが必要**だからです。

- ・そのゴールの姿に向けて、つけなければならない力を具体的に示したものが、学習指導要領。

4. 受講者の感想(夢田)

五中の4月当初の学力向上研修は「五中の課題、つきたい力」に焦点を当てた研修でした。五中の「多様性」を大切にしながら、「共通性」の価値に気づき、授業に浸透していけば、子どもにも先生方にも、よりよい未来が待っているように感じました。

「学習指導要領に基づく授業とは〇〇〇である。」の〇〇〇を五中の先生方で言語化できるように学力向上委員会から発信・企画していきます！



連絡 能力ベースの授業づくり実践講座 11月まで毎月実施されています。

年間のスケジュールは後日連絡します。直近は以下の通り。

5月15日(月) 14:00～17:00 @岸部市民センター

6月15日(木) 14:00～17:00 @佐竹台小学校

セット受講

→参加したいと思う方は、4月28日(金)までに夢田までお声かけ下さい。